

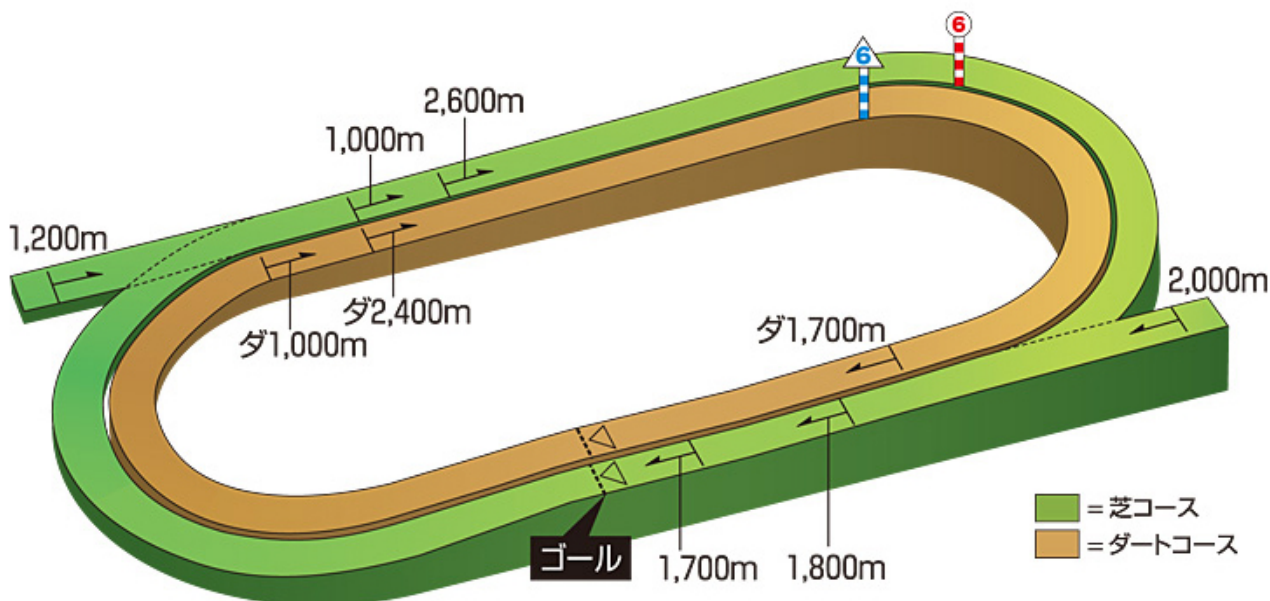


「函館競馬場徹底攻略ガイド」

presented by KAZ@競馬はビジネスである



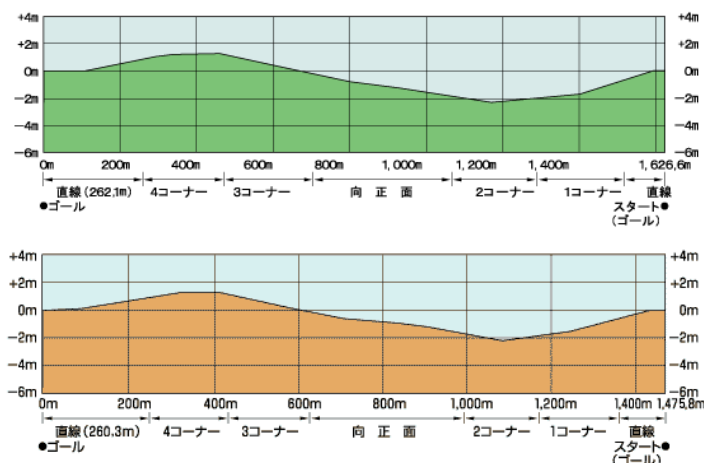
～函館競馬場の特徴～



北海道の競馬開催を札幌競馬場と並んで支える2枚看板の一つ。夏時期は北海道滞在の馬も多いため、後半に開催される札幌競馬場との違いをしっかりと考えるのが重要。札幌競馬場は一般ファンが考えるほど小回りコースではなく、コーナーが緩くて差し馬も十分に差し込めるようなコースレイアウト。一方で函館競馬場はコーナー半径も小さく、直線距離が262mしかないので正真正銘の小回りコースと言える。

この262m という直線距離は東京競馬場の坂を登ってからの距離よりも短く、それでいてコーナー半径も小さいとなれば逃げ先行馬が有利になるのも当然。開催序盤の馬場が良いコンディションの時にはイン先行有利のトラックバイアスが発生して前残りが頻発します。

以前は函館競馬場の洋芝＝良馬場でも時計がかかるイメージだったが、最近は開催序盤の馬場が傷んでいない時期は超高速馬場になる時もしばしば。それでも札幌競馬場よりは馬場が傷みやすい感じで、開催後半になればなるほどパワータイプの馬が台頭してきます。



函館芝1200m

案外札幌の方が前有利の傾向も開催序盤は先行有利、後半は外差しも決まる



札幌競馬場と同じく洋芝で行われる芝のスプリント戦。洋芝を使うということで全体時計や上がり時計は他場に比べて掛かる傾向だが、近年は馬場の高速化に伴い、開催序盤は高速スピードレースになることも多い。

札幌競馬場に比べるとコーナー半径が小さくて先行有利なイメージが強い舞台。実際に前有利な傾向はもちろんありますが、近年の結果を単純に見ただけだと札幌芝1200mの方が先行馬は優勢の結果に。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	20- 11- 5- 52/ 88	22.7%	35.2%	40.9%	140	104
平地・先行	44- 36- 37- 200/ 317	13.9%	25.2%	36.9%	110	98
平地・中団	23- 31- 37- 312/ 403	5.7%	13.4%	22.6%	49	74
平地・後方	2- 9- 9- 303/ 323	0.6%	3.4%	6.2%	10	46
平地・マク	0- 0- 0- 0/ 0					

※函館芝1200mの脚質別成績(2022年6月～)

札幌競馬場の逃げ馬複勝率が50%近くあることを考えれば、前有利ではあってもそこまで極端に前有利というわけではない感じか。逃げ馬よりも中団から競馬をした馬の方が勝ち鞍は多くなっていますしね。開催序盤の絶好馬場では当然前有利になりますが、開催後半は外からの差しも決まりますし、各ジョッキーがインへの意識が強くなると内枠先行馬はどん詰まりになることも結構多いコースです。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	横山武史	10- 7-13-25/55	18.2%	30.9%	54.5%	95	108
2	鮫島克駿	10- 5- 6-41/62	16.1%	24.2%	33.9%	93	87
3	武豊	9- 8- 8-20/45	20.0%	37.8%	55.6%	149	102

順位	調教師	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	(栗)音無秀孝	4- 2- 3- 4/13	30.8%	46.2%	69.2%	297	194
2	(栗)中竹和也	4- 1- 2- 3/10	40.0%	50.0%	70.0%	128	110
3	(栗)長谷川浩	4- 1- 0- 6/11	36.4%	45.5%	45.5%	117	70

ジョッキーで言えば横山武史騎手と武豊騎手は複勝率5割超えでこの舞台での乗り方を完全に心得ている感じ。函館滞在ジョッキーの中ではトップクラスの腕前なので必然的に良い馬も集まりますしね。

調教師で言えば音無厩舎と中竹厩舎が複勝率7割近い恐ろしい結果を収めています。

<まとめ>

- 単純な結果だけを見ると案外札幌よりも前有利ではない舞台。
- 開催序盤は前有利だが、後半は馬場が荒れて外差しも決まる。
- ジョッキーのインへの意識が強くなりすぎると内枠の馬はどん詰まりになることも。
- 武豊騎手、横山武史騎手の成績が絶好。
- 音無厩舎、中竹厩舎の成績が絶好。

函館芝1800m

逃げ先行が圧倒的に有利な舞台、ポイントは捲りが起きるかどうか



スタートしてすぐに1コーナーを迎えるコースレイアウト。それでいてコーナー半径が小さくて直線が短いとなれば圧倒的に逃げ先行が有利になるのは当然。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	10- 2- 6- 21/ 39	25.6%	30.8%	46.2%	417	148
平地・先行	15- 25- 17- 79/136	11.0%	29.4%	41.9%	52	102
平地・中団	12- 7- 15-128/162	7.4%	11.7%	21.0%	82	59
平地・後方	0- 4- 0-125/129	0.0%	3.1%	3.1%	0	22
平地・マクリ	2- 1- 1- 4/ 8	25.0%	37.5%	50.0%	270	108

※函館芝1800mの脚質別成績(2022年6月～)

こうして見ても逃げ先行馬で複勝率は4割超えですし、もう基本的には前に行ける馬だけを重視すればいい舞台でしょう。

ひとつ気をつけたいのはマクリ戦法の馬も複勝率5割の成績を誇っていること。まあ小回りコースで捲り切れる馬というのはシンプルに強い馬だと思いますし、途中で捲りが入りそうかどうかは注意したいです。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	丹内祐次	5- 9- 1-21/36	13.9%	38.9%	41.7%	89	148
2	横山武史	4- 5- 4-11/24	16.7%	37.5%	54.2%	46	72
3	浜中俊	4- 1- 3-14/22	18.2%	22.7%	36.4%	135	116
4	横山和生	2- 2- 2-16/22	9.1%	18.2%	27.3%	13	34
5	池添謙一	2- 1- 5- 9/17	11.8%	17.6%	47.1%	62	110

最も複勝率の高いジョッキーは横山武史騎手ですが、単複どちらも回収率が75%を切っているようにそれだけに人気馬に乗っているということ。それよりも丹内騎手や池添騎手の期待値が高いコースです。

順位	生産者	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	社台ファーム	9- 3- 3-37/52	17.3%	23.1%	28.8%	420	98
2	ノーザンファーム	6- 3- 8-56/73	8.2%	12.3%	23.3%	36	56
3	ビッグレッドファーム	4- 6- 0-10/20	20.0%	50.0%	50.0%	76	104
4	下河辺牧場	4- 2- 1- 4/11	36.4%	54.5%	63.6%	205	140

生産者別の成績データを見ると、やはりトップは社台系列の2つ。ただ、複勝率ベースで見るとビッグレッドファームと下河辺牧場がやたらに走っており、この舞台向きの先行力とタフさを備えた馬が多いということか。

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	キズナ	4- 2- 4- 8/18	22.2%	33.3%	55.6%	153	137
2	ハービンジャー	4- 2- 1-16/23	17.4%	26.1%	30.4%	238	59
3	オルフェーヴル	3- 2- 0- 6/11	27.3%	45.5%	45.5%	106	69

血統データで言えばキズナが圧倒的な成績。タフ馬場が得意で先行力もある産駒が多いので、この成績も納得じゃないでしょうか。キズナというだけで買ってもいいぐらいのデータです。

順位	母父馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	キングカメハメハ	4- 5- 5-14/28	14.3%	32.1%	50.0%	48	98

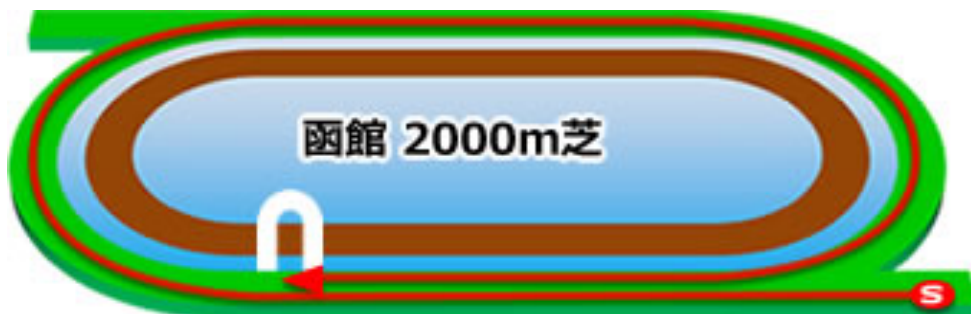
母父データで言えば母父キングカメハメハの成績が優秀。特に3番人気以内に推された際はほぼパーフェクトな結果となっていますし、この舞台で母父キングカメハメハの人気馬は信頼して良さそう。

<まとめ>

- 1コーナーまでの距離が短いので逃げ先行馬が圧倒的に有利。
- 横山武史騎手が複勝率1位だが、丹内騎手や池添騎手の方が期待値は高い。
- ビッグレッドファームや下河辺牧場の生産馬がやたらに走っている。
- キズナ産駒はこの条件で見つけたらベタ買いでもいいかも。
- 母父キングカメハメハ（特に3番人気以内）の馬がよく走っている。

函館芝2000m

1800mよりもペース上がって先行有利だが、極端な逃げ捲りの回収率が良い



芝1800mから1ハロン距離が伸びて1コーナーまでの距離が伸びる分前半のペースが明らかに速くなるのがこの条件の特徴。その分逃げ馬の勝率は下がって先行馬の勝率が上がっているのですが、逃げ馬の複勝率自体は51%で函館芝1800mよりも優秀。勝ちきれはしないものの逃げ馬がギリギリ粘り込んで穴をあけるケースが目立っています。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	3- 7- 6- 15/ 31	9.7%	32.3%	51.6%	733	290
平地・先行	16- 13- 7- 71/107	15.0%	27.1%	33.6%	188	114
平地・中団	6- 7- 9- 90/112	5.4%	11.6%	19.6%	32	55
平地・後方	2- 1- 6- 84/ 93	2.2%	3.2%	9.7%	28	32
平地・マクリ	2- 2- 0- 3/ 7	28.6%	57.1%	57.1%	200	130

※函館芝2000mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2022年6月~)

後方脚質の馬は函館芝1800mでは複勝率3%でしたが、2000mでは9%に上昇。この点を見ても1コーナーまでの距離が長くなってペース上がって差が決まる、というセオリー自体は正しいのですが、こちらのイメージ以上に極端な戦法(逃げやマクリ)の馬が穴を開けているのは覚えておきたい。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	丹内祐次	3- 6- 1-16/26	11.5%	34.6%	38.5%	108	122
2	横山武史	3- 4- 4-10/21	14.3%	33.3%	52.4%	83	98
3	武豊	3- 1- 0- 9/13	23.1%	30.8%	30.8%	145	78
4	富田暁	2- 1- 2- 4/ 9	22.2%	33.3%	55.6%	203	171

ジョッキーで言えば函館芝1800mと同様に丹内騎手と横山武史騎手の成績が優秀。位置を取りに行くジョッキーですし、この舞台にも慣れているので動くタイミングなどを心得ているんでしょう。富田騎手は騎乗数が少ないながら期待値は高め。この舞台が得意かはまだちょっとわかりませんね。

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ハービンジャー	5- 1- 3-16/25	20.0%	24.0%	36.0%	114	67
2	エピファネイア	3- 1- 4- 7/15	20.0%	26.7%	53.3%	106	167
3	ハーツクライ	3- 0- 3-19/25	12.0%	12.0%	24.0%	72	88
4	オルフェーヴル	2- 2- 0- 6/10	20.0%	40.0%	40.0%	61	83

血統データで優秀なのはエピファネイア産駒。好走率も回収率も素晴らしい結果ですし、函館芝2000mのエピファネイア産駒は注目していいはず。

人気	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1番人気	7- 5- 1- 16/ 29	24.1%	41.4%	44.8%	61	66
2番人気	1- 4- 6- 18/ 29	3.4%	17.2%	37.9%	11	61
3番人気	5- 5- 1- 18/ 29	17.2%	34.5%	37.9%	91	78
4番人気	5- 4- 5- 15/ 29	17.2%	31.0%	48.3%	151	121
5番人気	2- 3- 2- 22/ 29	6.9%	17.2%	24.1%	75	76

※函館芝2000mの人気別成績(2022年6月～)

最後にこの条件でちょっと気になるデータが人気別の成績。函館芝1800mでは1番人気の複勝率が8割近くあったのが、この条件では45%程度に。極端な逃げや捲りの馬の成績が良くなっているだけあって、人気通りに決まらないレースが最近は多くなっているということかもしれません。

<まとめ>

- 1コーナーまで距離が長い分でペースが流れて1800mより差しが決まるのは事実。
- 案外逃げ馬は期待値が良いコースで、極端な逃げ、捲り戦法が穴を開ける。
- 丹内騎手や横山武史騎手の成績が良い舞台。
- エピファネイア産駒の成績が非常に良い舞台。
- 1番人気の馬の成績が悪い点は少し気になる。

函館芝2600m

洋芝で起伏の富んだスタミナコースで他場と違う適性問われて1番人気危険



スタートしてから割とすぐにコーナーがありほぼ間違いなく前半はスローペース。途中から一気にペースアップしてのロングスパート勝負になり、洋芝でコースの起伏も富んでいるのでかなりスタミナが問われる条件になります。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	4- 2- 3- 19/ 28	14.3%	21.4%	32.1%	302	129
平地・先行	18- 9- 8- 43/ 78	23.1%	34.6%	44.9%	246	128
平地・中団	2- 10- 11- 78/101	2.0%	11.9%	22.8%	14	99
平地・後方	1- 2- 2- 89/ 94	1.1%	3.2%	5.3%	8	15
平地・マク	0- 2- 1- 6/ 9	0.0%	22.2%	33.3%	0	56

※函館芝2600mの脚質別成績(2020年6月~)

このコースは施行回数が少ないため2020年まで遡ってサンプルを抽出。脚質的には満遍なく好走していますが、極端に後ろから行く馬は厳しい結果になっています。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	吉田隼人	6- 0- 0-13/19	31.6%	31.6%	31.6%	170	61
2	ルメール	4- 2- 1- 4/11	36.4%	54.5%	63.6%	110	103
3	丹内祐次	2- 3- 3-16/24	8.3%	20.8%	33.3%	162	115

ジョッキー別のデータを見てみると、長距離戦になればなるほどパフォーマンスを上げてくるルメール騎手が優秀な成績。この舞台にルメールが乗ってきたら要注目です。

人気	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1番人気	4- 3- 3- 15/ 25	16.0%	28.0%	40.0%	40	56
2番人気	5- 4- 2- 14/ 25	20.0%	36.0%	44.0%	76	73
3番人気	1- 4- 4- 16/ 25	4.0%	20.0%	36.0%	27	71

函館芝2000mも1番人気馬の成績が悪かったですが、この函館芝2600mも1番人気馬の成績が最悪。洋芝のスタミナ条件ということで、それだけ他場のレースよりも求められる適性が異なっているということもかもしれません。

馬体重	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
～399kg	0- 0- 0- 2/ 2	0.0%	0.0%	0.0%	0	0
400～419kg	0- 0- 0- 3/ 3	0.0%	0.0%	0.0%	0	0
420～439kg	5- 2- 7- 18/ 32	15.6%	21.9%	43.8%	214	180
440～459kg	3- 7- 6- 60/ 76	3.9%	13.2%	21.1%	93	98
460～479kg	8- 9- 9- 53/ 79	10.1%	21.5%	32.9%	53	88
480～499kg	9- 3- 2- 54/ 68	13.2%	17.6%	20.6%	173	66
500～519kg	0- 2- 1- 33/ 36	0.0%	5.6%	8.3%	0	17
520～539kg	0- 1- 0- 10/ 11	0.0%	9.1%	9.1%	0	10
540～	0- 1- 0- 2/ 3	0.0%	33.3%	33.3%	0	63

※函館芝2600mの馬体重別成績(2020年6月～)

もう一つ特徴的なデータは馬体重が軽い馬の成績が良いこと。419キロ以下の馬は人気薄しか出走していないので好走できていませんが、420キロ～439キロ帯の馬の成績が非常に優秀。一方で500キロを超える馬はほとんど走れていません。

<まとめ>

- 極端に後ろから行く馬は厳しい。
- 長距離戦のルメールはこの条件も鉄板。
- 1番人気の馬の成績が非常に悪い。
- 420キロ～439キロ帯の馬が走る一方で500キロ超えの馬は不振

函館ダート1000m

イメージより外枠有利ではない舞台、逃げ先行有利で大型馬有利



ダート1000mは日本では3会場でしか行われていないが、これだけ短い距離なので基本的には逃げ先行有利。そして揉まれずに先行できるかが重要になるので外枠有利の傾向も顕著になりがちなのだが、最近の函館ダート1000mは言うほど外枠有利の傾向が出ていない。

枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1枠	4- 1- 4-30/39	10.3%	12.8%	23.1%	86	91
2枠	2- 7- 3-28/40	5.0%	22.5%	30.0%	23	87
3枠	3- 4- 2-31/40	7.5%	17.5%	22.5%	28	49
4枠	4- 2- 3-31/40	10.0%	15.0%	22.5%	44	126
5枠	8- 6- 3-53/70	11.4%	20.0%	24.3%	58	52
6枠	7- 6-11-52/76	9.2%	17.1%	31.6%	32	71
7枠	6- 4- 5-61/76	7.9%	13.2%	19.7%	43	39
8枠	6-10- 9-50/75	8.0%	21.3%	33.3%	76	74

※函館ダート1000mの枠順別成績(2022年6月～)

こうして見ても最近の函館ダート1000mはそこまで枠を気にする必要はなくなってきていると言えます。

一方で脚質に関しては明らかに前有利で、これは札幌ダート1000mと比較しても明らかに前有利の傾向。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	14- 7- 5- 14/ 40	35.0%	52.5%	65.0%	116	125
平地・先行	21- 27- 26- 63/137	15.3%	35.0%	54.0%	92	124
平地・中団	4- 6- 8-133/151	2.6%	6.6%	11.9%	33	57
平地・後方	1- 0- 1-126/128	0.8%	0.8%	1.6%	3	7
平地・マクリ	0- 0- 0- 0/ 0					

※函館ダート1000mの脚質別&上がり3ハロン別成績(2022年6月～)

もう基本的には逃げるかその直後かにつけるかできる馬以外は軸にしないほうが賢明と言える結果が出ています。函館ダート1000mは前に行ける馬を買いましょう。

そんな前に行ける馬を見つける上で参考になるのが馬体重。競争馬は大きい馬であればあるほどパワーとスピードに秀でていることが多いですが、函館ダート1000m は明らかに大きい馬ほど成績が良い傾向が出ています。

馬体重	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
～399kg	0- 0- 0- 5/ 5	0.0%	0.0%	0.0%	0	0
400～419kg	0- 2- 0- 12/ 14	0.0%	14.3%	14.3%	0	146
420～439kg	3- 6- 3- 42/ 54	5.6%	16.7%	22.2%	38	41
440～459kg	9- 14- 14- 87/124	7.3%	18.5%	29.8%	34	65
460～479kg	15- 5- 5-105/130	11.5%	15.4%	19.2%	76	42
480～499kg	7- 6- 10- 62/ 85	8.2%	15.3%	27.1%	44	101
500～519kg	6- 6- 6- 19/ 37	16.2%	32.4%	48.6%	72	124
520～539kg	0- 1- 2- 4/ 7	0.0%	14.3%	42.9%	0	105
540～	0- 0- 0- 0/ 0					

※函館ダート1000mの体重別成績(2022年6月～)

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	横山武史	5- 2- 3-11/21	23.8%	33.3%	47.6%	102	87
2	小林凌大	5- 1- 3-18/27	18.5%	22.2%	33.3%	65	63
3	佐々木大	5- 0- 2-12/19	26.3%	26.3%	36.8%	115	59
4	古川奈穂	4- 5- 0-10/19	21.1%	47.4%	47.4%	65	179
5	角田大和	2- 1- 4-16/23	8.7%	13.0%	30.4%	51	79
6	武豊	2- 1- 0- 8/11	18.2%	27.3%	27.3%	93	37

順位	生産者	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	グランド牧場	6- 3- 3-10/22	27.3%	40.9%	54.5%	90	173
2	岡田スタッド	3- 4- 1- 8/16	18.8%	43.8%	50.0%	61	78
3	杵臼牧場	3- 1- 0- 6/10	30.0%	40.0%	40.0%	122	63

順位	種牡馬	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	ドレフォン	4- 1- 2- 5/12	33.3%	41.7%	58.3%	335	133
2	シニスターミニスター	2- 4- 0-17/23	8.7%	26.1%	26.1%	93	54
3	ロードカナロア	2- 1- 2-10/15	13.3%	20.0%	33.3%	43	100

騎手と言えば前意識の強い横山武史と古川奈穂。生産者と言えばグランド牧場の成績が圧巻。血統と言えばドレフォン産駒が素晴らしい成績を残している点は覚えておきたいです。また母父にはなりますが、母父サウスヴィグラスと母父サクラバクシンオーはどちらも素晴らしい成績なのでこれも特注血統としたい。

<まとめ>

- ダート1000m は基本的に外枠有利だが函館ダート1000m はそこまででもない
- 圧倒的に前有利な条件で逃げ先行タイプ以外はなかなか厳しい
- 500kg を超える大型馬、横山武史騎手、古川奈穂騎手、グランド牧場生産馬、ドレフォン産駒などが成績良い
- 母父サウスヴィグラス、母父サクラバクシンオーがとにかく走る舞台

函館ダート1700m

小回りダート1700mらしく前に行った馬が圧倒的に有利な舞台



ダート1700mはローカル競馬場に4つあるが、細かいディテールを抜きにすれば札幌競馬場以外はだいたい同じと考えて良さそう。札幌ダート1700mだけは少し傾向が異なるのでその点だけ注意してください。

脚質上り	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
平地・逃げ	16- 9- 15- 41/ 81	19.8%	30.9%	49.4%	120	128
平地・先行	44- 46- 36-114/240	18.3%	37.5%	52.5%	150	135
平地・中団	10- 15- 21-293/339	2.9%	7.4%	13.6%	27	56
平地・後方	0- 1- 0-236/237	0.0%	0.4%	0.4%	0	12
平地・マク	4- 3- 2- 8/ 17	23.5%	41.2%	52.9%	317	130

※函館ダート1700mの脚質別成績(2022年6月~)

コーナー半径が小さくて直線が短いコースなので基本的に後ろから行く馬は不利。逃げ馬、先行馬、そして捲り馬の複勝率がそれぞれ5割前後になっており、一方で中団から後ろに構えて途中で動くこともない馬はほとんど来ないコースです。

順位	騎手	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	横山武史	10- 4- 2-21/37	27.0%	37.8%	43.2%	147	88
2	吉田隼人	7- 6- 4-17/34	20.6%	38.2%	50.0%	100	105
3	藤岡佑介	6- 1- 1-13/21	28.6%	33.3%	38.1%	260	118
4	鮫島克駿	5- 9- 4-24/42	11.9%	33.3%	42.9%	234	135
5	菱田裕二	4- 5- 2-17/28	14.3%	32.1%	39.3%	172	120
6	斎藤新	4- 4- 5-18/31	12.9%	25.8%	41.9%	144	99

順位	調教師	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1	(栗)四位洋文	4- 3- 0- 4/11	36.4%	63.6%	63.6%	74	87
2	(栗)中尾秀正	4- 1- 1- 3/ 9	44.4%	55.6%	66.7%	278	173
3	(栗)武英智	4- 0- 2- 5/11	36.4%	36.4%	54.5%	123	98
4	(美)加藤征弘	4- 0- 0- 8/12	33.3%	33.3%	33.3%	121	53
5	(栗)田中克典	3- 4- 1- 5/13	23.1%	53.8%	61.5%	273	191

前に行く馬が有利で、なおかつ騎手の仕掛けどころも重要になるコース。そんなわけでリーディング上位で函館競馬場を得意にしているジョッキーが好成績になっています。この舞台は少々の馬の能力差があっても、展開や騎手の仕掛けどころで結果が変わるのでその点には注意したいところです。

<まとめ>

- 札幌競馬場以外の1700mコースは前に行く馬が圧倒的に有利
- 騎手の仕掛けどころが重要な舞台なので、函館コースを得意にしているリーディング上位ジョッキーが有利
- 騎手の仕掛けどころや展開次第で少々の能力差は帳消しになるので注意
- 田中克典厩舎は近年の成績抜群